

**格納容器圧力逃がし装置の
原子炉建屋水素防護対策としての位置付け明確化
に伴う保安規定の変更について
(審査会合における指摘事項に対する回答)**

2023年5月18日

東京電力ホールディングス株式会社

1. 審査会合における指摘事項 P.2
2. 審査会合における指摘事項に対する回答 P.3

【参考資料】

2023年4月27日 原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合（第1141回）

**資料 1 – 2 格納容器圧力逃がし装置の原子炉建屋水素防護対策としての位置付け明確化
に伴う保安規定の変更について**

1. 審査会合における指摘事項

2023年4月27日の審査会合における指摘事項一覧

No.	指摘事項内容	回答頁
1	設置許可基準規則解釈第53条の改正により、格納容器ベントが53条設備として位置付けられたことから、53条設備として格納容器ベントのLCOを設定する必要があると考えるが、設定していない考え方を説明すること。	P.3～4
2	判断基準として、「～原子炉建屋内に漏えいした水素が静的触媒式水素再結合装置で処理しきれず～」を記載しており、明示的に要求事項とした「ためらわずベントできる手順」を踏まえて妥当なものとなっているか、説明すること。	P.5
3	局所エリアの詳細な構造及び通常時（運転）の運用について、資料を提示し、説明すること。	今後回答
4	建屋水素防護のための格納容器ベント実施を判断する水素濃度の場所は、「原子炉建屋地上3階（女川）」、「原子炉建屋オペフロ天井付近（K7）」であり、それ以外に局所エリアにも水素濃度計が設置されているが、仮に局所エリアの水素濃度計が先に可燃限界に近接するような場合に、事業者としてどのような対応をとるのか説明すること。	今後回答

2. 1 指摘事項No. 1 に対する回答

審査会合における指摘事項No. 1

- 設置許可基準規則解釈第53条の改正により、格納容器ベントが53条設備として位置付けられたことから、53条設備として格納容器ベントのLCOを設定する必要があると考えるが、設定していない考え方を説明すること。

指摘事項への回答

- 格納容器圧力逃がし装置が設置許可基準規則第53条設備に位置付けられたことに伴い、保安規定第66条において、当該設備を水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための設備としてLCOを設定する。
- なお、格納容器圧力逃がし装置については、同規則第50条等の対象設備であることから、既認可の保安規定第66条において、既にLCOが設定されている状況である。今回の設置許可基準規則解釈の改正により、第50条等の規定に基づき設置する格納容器圧力逃がし装置について、第53条に適合するために必要な設備としての位置付けを明確化することから、LCOについては既認可の保安規定と同一の系統・機器を対象とする。
- また、格納容器圧力逃がし装置については、原子炉格納容器から原子炉建屋への水素ガスの漏えいを抑制し、原子炉建屋内の水素濃度の上昇を緩和するため、原子炉格納容器から水素ガスを排出する設備であることから、原子炉格納容器の破損が発生する可能性のある期間を機能維持期間として適用する必要がある。そのため、適用される原子炉の状態としては、既認可の保安規定と同一の範囲である「運転、起動、高温停止」とする。

2. 審査会合における指摘事項に対する回答

2. 1 指摘事項No. 1 に対する回答

保安規定の変更内容

- 以下の通り、記載を変更する。

(重大事故等対処設備)

第66条
〔7号炉〕

原子炉の状態に応じて、次の各号の重大事故等対処設備^{※1}は、表66-1から表66-19で定める事項を運転上の制限とする。

- 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための設備
- 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備
- 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備
- 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備
- 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備
原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備
水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備
水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための設備
- 原子炉格納容器内の冷却等のための設備
- 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための設備
- 水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための設備
- 使用済燃料プールの冷却等のための設備
- 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための設備
- 重大事故等の収束に必要な水の供給設備
- 電源設備
- 計装設備
- 運転員が中央制御室にとどまるための設備
- 監視測定設備
- 緊急時対策所
- 通信連絡を行うために必要な設備
- アクセスルートの確保
- 可搬型代替注水ポンプ（A-2級）

2. 重大事故等対処設備が前項で定める運転上の制限を満足していることを確認するため、次号を実施する。

- 各GMは、原子炉の状態に応じて表66-1から表66-19の確認事項を実施し、その結果を当直長に通知する。

3. 当直長は、重大事故等対処設備が第1項で定める運転上の制限を満足していないと判断した場合、表66-1から表66-19の措置を講じる。

※1：可搬型設備の系統には、資機材等を含む。

凡例

青字：審査会合での指摘事項を踏まえた変更箇所

表66-5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備
原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備
水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備
水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための設備

66-5-1 格納容器圧力逃がし装置

(1) 運転上の制限

項目	運転上の制限	
格納容器圧力逃がし装置	格納容器圧力逃がし装置が動作可能であること ^{※1※2}	
適用される原子炉の状態	設備	所要数
運 転 起 動 高 温 停 止	フィルタ装置	1 個
	よろ素フィルタ	2 個
	ラプチャーディスク	2 個
	遠隔空気駆動弁操作用ボンベ	2 本 ^{※3}
	スクラバ水 pH 制御設備	1 式
	ドレン移送ポンプ	1 台
	ドレントンク	1 基
	フィルタ装置出口放射線モニタ	※4
	フィルタ装置水素濃度	※4
	可搬型窒素供給装置	※5
	可搬型代替注水ポンプ（A-2級）	※6
	可搬型代替交流電源設備	※7
	可搬型直流電源設備	※8
	常設代替交流電源設備	※9
常設代替直流電源設備	※10	
代替所内電気設備	※11	

※1：必要な弁（遠隔手動弁操作設備含む）及び配管を含む。

※2：原子炉の起動時にドライウェル点検を実施する場合は、ドライウェル点検後の原子炉の状態が起動になるまでの期間は運転上の制限を適用しない。

※3：「66-5-2 耐圧強化ベント系」の遠隔空気駆動弁操作用ボンベを兼ねる。

※4：「66-13-1 主要パラメータ及び代替パラメータ」において運転上の制限等を定める。

※5：「66-5-3 可搬型窒素供給装置」において運転上の制限等を定める。

※6：「66-19-1 可搬型代替注水ポンプ（A-2級）」において運転上の制限等を定める。

※7：「66-12-2 可搬型代替交流電源設備」において運転上の制限等を定める。

※8：「66-12-5 可搬型直流電源設備」において運転上の制限等を定める。

※9：「66-12-1 常設代替交流電源設備」において運転上の制限等を定める。

※10：「66-12-4 所内蓄電式直流電源設備及び常設代替直流電源設備」において運転上の制限等を定める。

※11：「66-12-6 代替所内電気設備」において運転上の制限等を定める。

2. 審査会合における指摘事項に対する回答

2. 2 指摘事項No. 2に対する回答

審査会合における指摘事項No. 2

- 判断基準として、「～原子炉建屋内に漏えいした水素が静的触媒式水素再結合装置で処理しきれず～」を記載しており、明示的に要求事項とした「ためらわずベントできる手順」を踏まえて妥当なものとなっているか、説明すること。

指摘事項への回答

- 判断基準に到達した場合に格納容器ベントをためらわず実施する方針を踏まえ、保安規定においてもベント判断基準を明確化するため「原子炉建屋内に漏えいした水素が静的触媒式水素再結合器で処理しきれず」の記載を削除する。

保安規定の変更内容

- 右記の通り、記載を変更する。

凡例

赤字：変更認可申請書における変更箇所

青字：審査会合での指摘事項を踏まえた変更箇所

操作手順

10. 水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等

方針目的

炉心の著しい損傷が発生した場合において、水素ガスが格納容器内に放出され、格納容器から原子炉建屋に漏えいした場合においても水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するため、静的触媒式水素再結合器による水素濃度抑制、原子炉建屋内の水素濃度監視及び格納容器圧力逃がし装置による原子炉建屋内の水素濃度上昇の緩和を行うことを目的とする。

対応手段等

1. 原子炉建屋内の水素濃度監視

当直副長は、格納容器内で発生し格納容器から原子炉建屋に漏えいした水素濃度を監視するため、原子炉建屋水素濃度計を用いて原子炉建屋内の水素濃度を監視する。

全交流動力電源又は直流電源が喪失した場合は、代替電源設備から給電されていることを確認後、原子炉建屋内水素濃度計を用いて監視する。

(中略)

2. 静的触媒式水素再結合器による水素濃度抑制

当直副長は、格納容器内で発生した水素ガスが格納容器から原子炉建屋に漏えいした場合は、静的触媒式水素再結合器動作監視装置を用いて原子炉建屋内の水素濃度上昇を抑制するために設置している静的触媒式水素再結合器の作動状態を監視する。

全交流動力電源又は直流電源が喪失した場合は、代替電源設備から給電されていることを確認後、静的触媒式水素再結合器動作監視装置を用いて監視する。

(中略)

3. 格納容器圧力逃がし装置による原子炉建屋内の水素濃度上昇の緩和

当直副長は、原子炉建屋内に漏えいした水素が静的触媒式水素再結合器で処理しきれず、原子炉建屋オペレーティングフロアの天井付近の水素濃度が2.2vol%に到達した場合は、格納容器から原子炉建屋への水素の漏えいを抑制し、原子炉建屋内の水素濃度の上昇を緩和するため、格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベントを実施する。

格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベント操作の対応手順等は表7に基づき実施する。

(中略)